

早産児における左房容積および動脈管開存症評価 PLASE Studyへのご理解とご協力について

未熟児動脈管開存症は早産児の重大な合併症で、死亡、重症頭蓋内出血、慢性肺疾患、壊死性腸炎などがおきてしまう原因のひとつと考えられています。未熟児動脈管開存症の適切な管理は早産児が元気に退院するための重要な課題ですが、未だにどのような管理方法がよいかはわかっておりません。

現在、新生児臨床研究ネットワークでは、在胎23週～29週で出生した早産児が元気に退院するための管理基準を作成するために多施設共同研究事業を実施しています。

通常の診療する範囲内で、血液検査や心臓超音波検査の結果、お子さまの状態を定期的に記録して、研究に活用させていただきます。これらの結果はすべて匿名化した上で解析しますので、個人情報流出する可能性はございません。

研究を実施するためには、できるだけ多くの記録が必要となりますので、多くの皆様のご理解とご協力をお願いしております。

なお、研究への参加を希望されないご家族の方は主治医にお話し下さい。ご協力いただけなくても、診断や治療、対処などにまったく影響はありませんのでご安心下さい。

みんなの
元気に

